

第4章

【都市基盤分野】

快適で利便性の高いまちづくり

4-1 道路基盤

4-2 市街地・下水道

4-3 公園・緑地・緑化・景観

4-4 河川・雨水処理

4-5 公共交通

4-1

道路基盤

<施策の内容>

- ①安全で快適な道路環境の整備
- ②道路網の整備

施策が目標とするまちの姿

安全で快適に移動できる道路環境が整っています。

協働の考え方

市民の役割	地域・団体・事業所等の役割
道路の安全に関心を持ち、安全で快適な道路づくりに参加するよう努めます。	道路環境の保全に協力します。

現状と課題

- 道路は安全で快適に移動するための基盤であり、誰もが快適に移動することができるように、歩道整備など、歩車道の分離や道路の段差をなくすバリアフリー化[※]を進めることが求められています。
- 幹線道路[※]は広域の交通アクセスの確保にとって重要であり、都市計画道路[※]の延伸は沿線住民の協力が不可欠なことから、必要度や緊急度などにより優先順位を決めながら整備を進める必要があります。
- 道路や橋りょう[※]は老朽化が進んでいくため、陥没などの早期発見や、橋りょうの5年に一度義務付けられている定期点検を行い、的確に修繕などの維持管理を行う必要があります。
- 市街地内に農業用基盤整備[※]のままで残っている側溝のない道路や柵のない水路については、市街地としてふさわしい改良・安全対策を進める必要があります。

主要施策

①安全で快適な道路環境の整備

- 歩道と車道の分離を進めて、通行の安全性や利便性を高めます。
- 道路の段差を解消するなど、高齢者・障害者などの移動の円滑化を推進します。
- 橋りょう[※]の定期点検と維持管理、修繕を進めます。
- 右折レーン設置など交差点改良を進めます。
- 道水路の改良・安全対策を推進します。
- 歩行者に優しい基盤整備[※]を進めます。
- 生活道路[※]における機能分担や速度抑制対策などを市民と協働[※]しながらハード・ソフト両面から進めます。
- 景観や住環境に配慮した基盤整備を推進します。

<主な取組>

○歩道のカラー舗装 ○主要交差点のカラー舗装 ○道路の段差解消 ○橋りょうの定期点検 ○橋りょうの維持管理修繕 ○交差点の右折レーンの設置 ○道水路の改良・安全対策 ○生活道路の交通安全対策

②道路網の整備

- 南北と東西方向の移動の利便性を高めるために、都市計画道路[※]の整備を進めます。
- 名古屋鉄道犬山線の鉄道連続立体交差[※]化について関係機関と検討を進めます。
- コンパクトで暮らしやすい心温まるまちの形成に向けて、駅や市役所などを中心とした公共空間[※]における公共交通、自転車、徒歩などによる移動の円滑化を推進します。
- 都市計画道路の整備に合わせ、自転車通行空間の整備について検討します。

<主な取組>

○高田寺久地野線や豊山西春線など未整備な都市計画道路の整備 ○名古屋豊山稲沢線など県道の整備・改良の促進 ○鉄道連続立体交差と周辺まちづくりの事業化

施策の進捗を多角的に測るもの

指標	現状値 (2016年度)	目標値		
		2022年度	2027年度	
市民意識調査指標	<現状や活動状況> 「お住まいの地域の道路は安全に通行することができる」市民の割合	56.4%	60%	65%
	<現状や活動状況> 「高速道路や都市部への交通アクセスが容易である」市民の割合	74.5%	77%	80%
	<満足度> 「お住まいの地域の道路は歩行者や自転車が安全に通行できる」と思っている市民の割合	19.5%	25%	30%
	<満足度> 「北名古屋市から周辺市町へ行くための主要な道路は快適に利用できる」と思っている市民の割合	55.9%	60%	65%
指標組	橋りょう修繕箇所(累計)	11橋	35橋	55橋

◆関連する計画

- 北名古屋市都市計画マスタープラン
- 北名古屋市橋梁長寿命化修繕計画

4-2

市街地・下水道

＜施策の内容＞

- ①豊かで快適な住環境の形成
- ②魅力があり心温まる都市基盤づくり
- ③下水道整備の推進

施策が目標とするまちの姿

計画的で有効な土地利用や基盤整備が進み、快適な住環境が整備され、魅力があり心温まる拠点機能を持つ市街地を形成しています。

協働の考え方

市民の役割	地域・団体・事業所等の役割
地域の土地利用や環境について関心を持つとともに、下水道への接続を進めます。	快適な都市環境について関心を高めて、地域の価値を高めるための土地利用の実現や下水道整備に協力します。

現状と課題

- 快適に住み続けることができる都市づくりのためには、適切な土地利用を実現することと基盤整備※を進めることが不可欠であり、今後も定住人口を確保するために、良好な住宅地を形成していくことが求められています。
- 名古屋鉄道徳重・名古屋芸大駅周辺のまちづくりに合わせた、名古屋鉄道犬山線の高架化事業の事業化に向け、関係機関との協力及び関係機関への継続的な要望が必要です。
- 市街化区域※の低未利用地※を有効に活用するため、地区計画※の導入などについて検討が必要です。
- 下水道の整備面積及び普及率は順次拡大しており、供用開始区域※内の接続率も良好なもの、比較的新しい家屋では下水道への切り替えについて抵抗感があるため、下水道による環境改善効果の理解を促進していく必要があります。
- 管きよ※やマンホールの点検調査を行い、機能低下を未然に防ぐとともに、施設の延命化が必要となります。

主要施策

①豊かで快適な住環境の形成

- 都市計画マスタープラン※に基づいて、適正な土地利用の誘導を図ります。
- 地区計画※の導入を促すなど質の高い住宅地の形成を図ります。
- 土地需要の高い地域の土地利用を図るため、地区計画の導入や用途地域※の変更を検討します。
- 住民の生活環境に深刻な影響を及ぼす空家などの対策を進めます。
- 田園風景と調和した市街地形成を図ります。

<主な取組>

○都市計画マスタープランの推進 ○地区計画の導入促進 ○用途地域変更の検討 ○空家等対策計画の推進

②魅力があり心温まる都市基盤づくり

- 鉄道の高架化を推進します。
- 名古屋鉄道徳重・名古屋芸大駅周辺地区の市街地整備を図ります。
- 企業誘致に向けて土地区画整理事業※など基盤整備※を進めます。
- 土地区画整理事業の推進と、開発ポテンシャル※の高い地区についての整備を検討します。

<主な取組>

○連続立体交差事業 ○名古屋鉄道徳重・名古屋芸大駅周辺地区の整備 ○沖村西部土地区画整理事業の推進

③下水道整備の推進

- 新川流域関連公共下水道の整備を促進します。
- 公共用水域※の水質改善を図っていきます。
- 下水道整備による環境改善効果について市民の理解を促します。
- 下水道への接続について個別訪問などにより理解を促します。
- 供用開始区域※内の浄化槽を下水道へ切り替える接続支援を行います。

<主な取組>

○新川流域関連公共下水道の整備 ○下水道接続の奨励・融資あっせん

施策の進捗を多角的に測るもの

指標		現状値 (2016年度)	目標値	
			2022年度	2027年度
市民意識調査指標	<現状や活動状況> 「北名古屋市の豊かで便利な住環境に関心を持っている」市民の割合	44.8%	58%	69%
	<現状や活動状況> 「下水道による環境改善効果を理解している」市民の割合	44.7%	58%	69%
	<満足度> 「北名古屋市の市街地は快適でゆとりのある住環境が形成されている」と思っている市民の割合	29.4%	35%	40%
取組指標	下水道普及率	42.6%	57%	69%
	下水道整備面積	483.3ha	647ha (2020年度)	770ha (2025年度)

◆関連する計画

- 北名古屋市都市計画マスタープラン
- 北名古屋市一般廃棄物処理基本計画
- 北名古屋市污水適正処理構想
- 北名古屋市空家等対策計画

4-3

公園・緑地・緑化・景観

<施策の内容>

- ①魅力ある公園や緑地の整備
- ②公共空間・市街地の緑化の推進
- ③やすらぎある景観の形成

施策が目標とするまちの姿

市民が公園や緑地を快適に利用しており、市街地や郊外の緑豊かな景観に温もりやうるおいを感じています。

協働の考え方

市民の役割	地域・団体・事業所等の役割
公共空間*や自宅にある花や樹木を大切に、公園や緑地の美化に努めます。	公共空間やその植栽を管理するアダプトプログラム*へ積極的に参加します。 河川や公共空間などを美化する活動、農業体験や耕作支援などの活動を行います。

現状と課題

- 憩いの空間として公園や緑のある居住環境の中で暮らすことに価値が求められ、更なる美しいまち並みや田畑が形成されている環境が必要となります。
- 市内に約90箇所ある身近な児童遊園は適正に管理されており、児童に安全な遊び場を提供するとともに、通学のための集合場所、ごみの集積所など多目的に利用されています。
- 歩道整備に合わせた街路樹の植栽や、公共空間の植栽は順次進めてきたことから、公園やポケットパーク*、歩道などにおいては、アダプトプログラムによる管理を進めることが求められています。
- アダプトプログラムに参加しているグループ員の高齢化が進んでいるため、より多くの参加者が求められています。
- 良好なまち並みと景観の形成のために、市街地の歩道などに設置されている彫刻等モニュメントや郊外における田園風景の保全が求められています。
- 都市公園*の市民一人当たりの面積は少ない状況となっており、量的な課題とともに、魅力や特色など質的な課題も重視されるようになってきています。

主要施策

①魅力ある公園や緑地の整備

- 大規模公園や緑地の整備を進めます。
- 小学校区ごとに特色のある都市公園[※]を整備し、魅力あるまちづくりを推進します。
- 河川を利用した遊歩道の整備などによる緑や関連する既存の緑地などによる緑のネットワークの形成を図ります。
- 水辺公園やビオトープ[※]など、親水公園[※]を整備します。
- 児童遊園の適切な維持管理を進めます。
- 避難場所などの防災機能や雨水貯留機能[※]も備えた公園や緑地の整備を進めます。
- 民間による市民緑地[※]の整備を検討します。
- 民間と連携した公園の管理・運営を検討します。

<主な取組>

- 緑の基本計画の推進
- 五条川プロムナード計画の推進
- 大規模公園、緑地の整備
- 街区公園の整備
- 児童遊園の適切な維持管理

②公共空間・市街地の緑化の推進

- 歩道の整備に合わせて街路樹を植栽します。
- 公共空間[※]において樹木や花の植栽を進めます。
- 生産緑地地区[※]を適正に保全するとともに、都市農地[※]のあり方を検討します。
- アダプトプログラム[※]を活用して公共空間の緑化やその管理を進めます。

<主な取組>

- 街路樹の植栽
- 樹木や花の植栽
- 生産緑地地区
- アダプトプログラムの活用

③やすらぎある景観の形成

- 耕作放棄地[※]の発生を抑制し、農地としての活用を図ります。
- 市街化調整区域[※]における乱開発を防止します。
- 景観デザインのガイドラインを検討します。
- 愛知県屋外広告物条例[※]に基づいて屋外広告物について適正な指導を行います。
- 名古屋芸術大学との連携により良好な景観形成に努めます。

<主な取組>

- 農地パトロールの強化
- 景観計画の策定
- 屋外広告物の規制
- 緑地の保全
- 彫刻等モニュメントの維持管理

第4章 都市基盤分野

施策の進捗を多角的に測るもの

指標		現状値 (2016年度)	目標値	
			2022年度	2027年度
市民意識調査指標	<現状や活動状況> 「自宅やお住まいの地域の緑化に取り組んでいる」市民の割合	32.5%	38%	43%
	<現状や活動状況> 「田園風景や街路の彫刻によりうおいを感じる」市民の割合	44.6%	47%	50%
	<満足度> 「市内に心安らぐ公園や緑地がある」と思っている市民の割合	30.2%	35%	40%
	<満足度> 「市内にきれいだと感じる田園風景やまち並みがある」と思っている市民の割合	33.4%	35%	40%
取組指標	市民一人当たりの都市公園面積	0.46 m ² /人	0.64 m ² /人	0.76 m ² /人
	アダプトプログラム登録団体数	12 団体	15 団体	20 団体

- ◆関連する計画
- 北名古屋市都市計画マスタープラン
 - 北名古屋市緑の基本計画
 - 五条川プロムナード計画



4-4

河川・雨水処理

<施策の内容>

- ①治水対策の推進
- ②魅力的な水辺環境の整備

施策が目標とするまちの姿

河川改修や下水道整備が着実に進み、浸水被害や河川の決壊などの水害のリスクが少なくなっています。

協働の考え方

市民の役割	地域・団体・事業所等の役割
自宅において雨水の一時的な貯留に努めます。	河川や排水路などの清掃を行うことや、雨水の保水ができる農地の保全に協力します。

現状と課題

- 集中豪雨や大型台風による災害が全国的に多発し、被害の発生が懸念されていますが、本市では、新川流域水害対策計画[※]に基づく県との連携した河川改修や、浸水対策のために雨水ポンプ場[※]や雨水管きよ[※]の整備を進めるなど総合的な対策が求められています。
- 排水機[※]や樋門[※]の整備が不十分で水はけの悪い地域があるため、施設の維持管理と計画的な修繕が必要です。
- 貯留機能を高めるために、学校グラウンドや公園などに雨水貯留施設[※]を設置していますが、都市化が進み農地が減少し保水・遊水機能[※]が低下しているため、農地の保全が求められています。
- 河川空間は貴重な自然資源であり、水辺公園や遊歩道の整備を進めてきており、今後も親しまれる水辺空間を広げることが必要です。

主要施策

①治水対策の推進

- 河川管理者である県と連携し、河川改修を進めます。
- 雨水ポンプ場[※]や雨水管きよ[※]、排水路などの整備を行い、排水能力の拡充を図ります。
- 雨水貯留施設[※]、雨水浸透施設[※]を整備するとともに、適切な維持管理を進めます。
- 雨水の貯留・浸透機能を有する水田や畑の保全を図ります。

<主な取組>

- 新川流域水害対策計画の推進 ○河川改修事業 ○片場ポンプ場の整備 ○排水機場の維持管理
- 鹿田雨水調整池の整備 ○生産緑地地区の保全 ○遊休農地の発生抑制 ○民間による一時貯留の推進

②魅力的な水辺環境の整備

- 合瀬川遊歩道の整備推進とともに、五条川、鴨田川、水場川などの河川整備に合わせた水辺公園などの自然とふれあえる場の整備を推進します。
- 水辺を楽しむ散策することができる河川遊歩道を整備します。

<主な取組>

- 水辺公園の整備 ○河川遊歩道の整備

施策の進捗を多角的に測るもの

指標		現状値 (2016年度)	目標値	
			2022年度	2027年度
市民意識調査指標	<現状や活動状況> 「雨水貯留施設や地下浸透柵を設置している」市民の割合	10.7%	13%	15%
	<満足度> 「お住まいの地域では大雨による水害の心配が少ない」と思っている市民の割合	29.8%	35%	40%
	<満足度> 「お住まいの地域は排水施設が整備されている」と思っている市民の割合	27.0%	32%	37%
指 取 標 組	雨水貯留施設整備量	20.6%	25%	30%

◆関連する計画 ●新川流域水害対策計画

4-5

公共交通

<施策の内容>

- ①市内交通の充実
- ②市外への交通アクセス

施策が目標とするまちの姿

主要鉄道駅までの交通手段が確保され、高齢者などの交通弱者が気軽に市内を移動できる公共交通が提供されています。

協働の考え方

市民の役割	地域・団体・事業所等の役割
地域公共交通 [*] の役割を認識し、積極的に利用するとともに、過度に自動車に依存しないライフスタイルに心がけます。	団体、事業所は通勤などに際して、市内循環バスなど公共交通を利用するよう促します。

現状と課題

- 超高齢社会^{*}を迎え、車を運転しない高齢者は、更に増加していくものと予想され、子どもや高齢者など車を利用できない交通弱者にとって、公共交通は暮らしを支える社会基盤施設^{*}の一つであり、地域公共交通の充実を図る必要があります。
- 市内循環バスの利用者数は年間19万人を超えていますが、更なる市民ニーズの把握に努め、利便性の向上を図ることが必要です。
- 本市は、名古屋鉄道犬山線の西春駅を拠点に、名古屋市都心部^{*}や県営名古屋空港と結ばれており、西春駅への交通アクセスの手段として、名鉄バスや市内循環バスが運行していますが、今後は、リニアインパクト^{*}を見据え、更に近隣市町との共同による広域的な公共バス路線運行も検討する必要があります。

主要施策

①市内交通の充実

- 利用者のニーズを踏まえて市内循環バスの路線や運行を充実します。
- 朝夕の通勤・通学者と高齢者などの交通弱者の移動手段という運行目的を持つ市内循環バスの利便性が更に高まるよう、効率化を進めます。
- 民間交通の活用を図ります。

<主な取組>

○市内循環バスの充実 ○地域公共交通としてのタクシーの利用

②市外への交通アクセス

- 鉄道利用の促進を図ります。
- 広域的公共バス路線運行の可能性を検討します。

<主な取組>

○主要鉄道駅までの交通手段の確保 ○名古屋市営バスの延伸 ○近隣市町のバス交通との広域連携

施策の進捗を多角的に測るもの

指標	指標	現状値 (2016年度)	目標値	
			2022年度	2027年度
市民意識調査指標	<現状や活動状況> 「公共交通機関を利用するようにしている」市民の割合	46.3%	50%	60%
	<満足度> 「お住まいの地域から市内各所に公共交通を利用していくことができる」と思っている市民の割合	34.3%	40%	40%
取組指標	市内循環バス利用者数	196,946人	200,000人	210,000人